

世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 9年間』

7月の目標

人格の完成を目指して
「良心」

<安全>

- ・知らない人に
気を付けよう。

<保健>

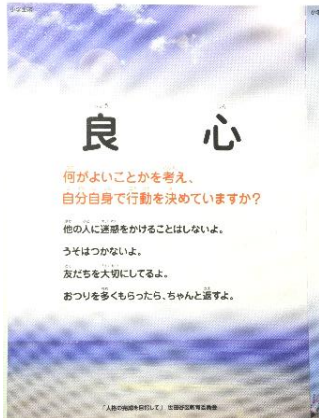
- ・夏を元気に過ごそう。

<給食>

- ・正しい食事をしよう。

<挨拶>

- ・相手の顔を見て
挨拶をしよう。



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

親心のはずが～子育ての難しさ

校長 廣瀬 維謙

早いもので、1学期が残り3週間となりました。子どもたちは、これから学習や生活のまとめに取り組んでいきます。

さて、「這えば立て 立てば歩め 親心」ということわざがあります。これは幼い我が子がいはいをしだすと、次は立ってほしい。つかまり立ちができるようになったら、次は歩けるようになってほしいという、我が子の成長を願う親の気持ちです。

保護者の皆様も、産まれる前は無事に産まれてほしい、産まれてからは健康に育てほしいという願いだったと思います。でも、我が子が成長して多くの人との関わりは増えるにつれ、どうしたことか心配事が増えてきませんか？

私も、子どもが小学校に通うようになって、それまでにはなかった心配事が出きました。「友達と仲良く過ごせているか」「勉強についていけているのか」など、挙げたらきりがありません。そして、自分の心の中にある心配事を払拭するかのようになり、「今日、学校はどうだった？」「明日の用意はしたのか？」と、聞く場面が多くなってしまいました。今思えば、口うるさい親だったような気がします。

親として、我が子に「できるだけつらい思いはさせたくない」「幸せな人生を送ってほしい」と願うのは当然のことです。子どもが困らないよう、こんなことができる人になってほしいと理想を伝えたり、習い事をさせたりすることもあるでしょう。こうした親の願いや働きかけは、決して悪いことではないと思います。しかし、我が子のためという「親心」が膨らみすぎてしまう場合もあります。そして、「我が子のため」と言いながら、実は親の不安の解消や自己満足のため、子どもに負荷をかけ過ぎてしまうことも少なからずあるのです。

相手のためによかれと思ってやっているのに、うまくいかないと腹が立ってしまうことがあります。我が子が困ったり、物事がうまく進まなかったりしたとき、親は「励ましの言葉」をかけますが、その言葉を次への活力につなげる子どもがいれば、自分を責めてしまう子どももいます。親の期待に応えられなかったという気持ちが大きければ大きいほど、心と体の状態は不安定になってしまいます。言動や態度がいつもと違うと感じたのならば、それは助けを求めているメッセージかもしれません。

学校での指導も子育てと一緒に。「這えば立て」「立てば歩め」と、成長を期待して「励ましの言葉」をかけます。しかし、忘れてはいけないのは一人一人の状況に応じた言葉をかけることと、言葉をかけた後の様子を丁寧に見取ることです。

御家庭でも、学校でも、子どもたちのよさや可能性を伸ばしていける「励ましの言葉」を心掛けていきましょう。